

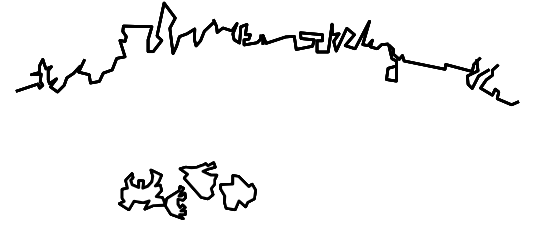
兵庫県のみ漁場環境情報 (西播海域 11号)

2020年 1月29日発行
 兵庫県のみ研究所

地先漁場では陸水等の影響を受けていた一部を除き、窒素の低い状況が続いています。沖合漁場では、前回(1/20)調査で確認されていた肉眼視される数種の珪藻は減少しており、窒素は概ね $2 \mu\text{g-at/L}$ 台の値となっています。

(栄養塩、珪藻) 地先漁場では前回調査同様、小型のキートセロスやユーカンピアが中心となって確認されるが、ユーカンピアの発生量は海水1mlあたり80~100細胞と大きな増減は認められない。沖合漁場ではコシノディスカスが海水1Lあたり50~80細胞と散見されるが、綿埃状に見えるキートセロスの一種は減少しており、窒素は坊勢海域で $2 \mu\text{g-at/L}$ 台、家島海域で $2 \mu\text{g-at/L}$ 前後であった。

水温図



		前回値	今回値	平年値	昨年値
西播地先	窒素	0.9	1.0	1.6	3.6
	リン	0.31	0.41	0.27	0.49
家島・坊勢	窒素	2.0	2.2	2.7	4.1
	リン	0.54	0.54	0.44	0.46

(1/20) ※地先平均は赤穂漁場を除く (1/28)

栄養塩 (窒素) 図

2020年 1月29日調査

